

9 人材育成・文化・スポーツ振興特別委員会における前原かづえ県議の質疑

2016年10月12日

Q．前原委員

- 1 中小企業若手社員海外研修支援事業について、国際業務に必要な情報の不足や人材不足といった課題に合わせた事業ということだが、埼玉県に対してどのような事業効果があるのか。また、今後どういう形で発展させたいのか考えを伺いたい。
- 2 国際教養力の伸長について、とても興味ある事業なのだが、芸術文化セミナーのそれぞれの参加状況と受けた人たちの感想をまとめているのかどうか伺いたい。また来年度はどのようなものを計画しているのか、このような事業は、誰が関わって決定されているのか伺いたい。

A．産業労働政策課主幹

- 1 当事業の効果を把握するため、平成23年度から平成26年度までの利用企業にアンケートを実施した。研修実施後、海外拠点の生産拡大、輸出入の開始などの変化については、71%が売上高・利益が増加などの変化があったと回答した。また変化があったと答えた企業の75%が、海外研修が直接・間接的に関係していると答えている。

また、今後に関しては、当事業がグローバル人材育成基金を利用して平成28年度までを事業期間としていることから、幅広く海外展開支援や経営支援を実施していく中で、引き続き、グローバル人材の育成・確保につながる取り組みを進めていくこととしたい。

A．高校教育指導課長

- 2 芸術文化セミナーは県立近代美術館との共

催事業である。参加人数だが、「対話からはじまる美術」は24名、「アトリエ訪問」は12名である。そして「企画展」は11月13日の実施予定であるが、24名を予定している。これら3つの事業は単独の事業ではなく、「骨太のリーダーを育成する高校生のための埼玉版リベラルアーツ事業」の一環である。そのため、その事業で指定している県立高校12校から推薦をいただき、生徒を募集するという形を取っている。このセミナーの基本的なコンセプトは「対話」である。学校の授業では、生徒は自由にいろいろなものについて対話するという経験が乏しい。そういった中で、自分の考えをまとめ、ほかの人に聞いてもらうことで積極的に発言する力が身に付いたという感想や、他人の考え方や価値観を聞いて自分の考え方が深まったという感想を多く受けている。

また、事業の実施方針等の決定プロセスであるが、高校教育指導課の担当者と連携先である近代美術館の担当者の方々とでいろいろな状況を勘案し、来年度以降についての詳しいメニュー等を検討しているところである。

Q．前原委員

古典セミナーについても、参加状況と受けた人たちの感想、来年度はどういった形にするのか、教えていただきたい。また、参加人数が限定されていることについて、もっと参加者枠を大きく広げ、より多くの人たちがこのような機会に触れられるシステムにならないかと考えるが、その点についてはどうか。

A．高校教育指導課長

「古典セミナー」の参加人数は44名である。このセミナーも基本的に「対話」を重視しており、参加した生徒がいくつかのグループになり、円形に机を並べ、講義ではなくそれぞれの意見をぶつけ合う、そこに大学の先生、あるいはモデレーターという進行役の方、サポートをするこの分野に詳しい方に入っただき、議論を活性化していくという仕掛けも設けている。そういった中で、いろいろな方々との意見交換を行うことで視野が広がったという感想や、教室とは違った雰囲気の中で、自分の考えを表現し、また他者の考え方や価値観を受け入れることができ、考えが深まったという感想を頂いている。また、この事業は、一般社団法人日本アスペン研究所との連携である。法人の担当の方々といろいろと課題等をぶつけ合いながら、来年度以降の内容について検討をしている。また、参加人数をもっと増やしたいところだが、「対話」を重視していることから、大勢の中では発言をする機会が少なくなってしまうこともある。また、こうした取り組みは日が浅く経験が積み上がっていないところもあるので、今後研究してより多くの生徒が参加できるように進めたいと考えている。